

(学校運営協議会・報告様式)

令和4年度 第6回 若松小学校 学校運営協議会 実施報告書

1 日 時 令和 5年 2月 27日 (月) 16:00 ~ 17:00

2 場 所 会議室

3 あいさつ

(委員長)

・暖かくいい季節になりましたが、みなさんからだには十分気をつけてください。

(学校長)

・インフルエンザ・コロナについては落ち着いてきている。

・学校行事について

「6年生を送る会」全校で開催。5年生が中心になり立派にやり遂げてくれた。

「卒業式」5年生も参列。保護者、来賓はマスク着用だが、児童は外す場面もある。

・資料より

消毒ボランティアへの感謝、消防団入口シャッターの塗り替え、全国体力・運動能力・運動習慣等調査についての報告。

4 協議内容

(1) 学校関係者評価について (資料別紙)

・今後の改善点を入れた完成版を承認いただき、ホームページ等で公開していく予定。

(2) 1年間のまとめ (各委員さんより)

・サンクスパーティへの地域の方の参加は11名、学校ボランティア感謝のつどいへの参加も11名。ごみのポイ捨て予防ポスター100枚完成。子どもの意見で始まった取組。学校内や地域各所へ張り出す。

・児童の挨拶がさわやかでよい。

・16年ほど運営委員をさせていただいた。この間、学力は上がってきている。コロナ禍にあっても体力面は伸びている。のぼり棒を直してもらったり、子どもの主体性を伸ばす地域での取り組みを工夫してもらったり等、地域の方の支えのおかげと思う。

・子どもとの対話が増えた。学校へ出向くと児童が声をかけてくれる。また、地域の取組に自主的に参加してくれ嬉しい。地域学習に関連した本への興味を持つ子もいた。

・雪の日の登校時、危険を避けて臨機応変に対応した。子どもの安全を第一に誘導する。

・3年間、東門で挨拶運動を行った。児童のひとりひとりの声はまだ小さいと感じている。

・若松地区は、子どもの数があまり増えないが、丁寧にかかわることでたくましくなっているほしい。

(2) 次年度に向けて

- ・青パトの活動では危険な行為も見受けられたので、今後も見守り，協力していく。
- ・子どもの自己肯定感が市全体で低い傾向，本校も同じ。取組が必要。
- ・先進的な地域の早寝の取組を紹介，学力向上につながる。若松小でも国語科の研究とともに取り組んでいってはどうか。
- ・今年度は予定した地域行事を100%実施した。全体の参加数は減ったが，親子での参加が，2019年に比べて2.5倍，理想のかたちになってきた。若松のこれまでの取組の成果と考える。今後も親子で参加できるものを提供していく。
- ・ふれあいフェスタでは，今後も子どもがコーナーを担当して進行するなど，新しい工夫をしていく。
- ・PTA代表として2年間参加した。これまで，地域の方が子どもたちのためにこんなにしてきているということを知らなかった。負担を感じる保護者もいるかもしれないが，PTAは今後も地域と協力していく。

5 教育委員会より

- ・四日市大学の学長の講演で，「まちづくりを一生懸命すると，コミュニティスクールになる」「高校の『探究活動』などもからめた取り組みもよい。」という話が，まさに若松地区のことだと考えた。
- ・地域の子をどう育てるかという話がたくさん出た。どうしたら主体的にできるようになるか等，子どもの自己肯定感につながる。
- ・睡眠を進めていこうという提案もプラス思考で，スマホやゲームをしないという否定的な表現でないところもよい。
- ・コロナ禍でスポーツが思い切りできない中，若松はスポーツテストの結果が高い。これも地域の力のおかげである。子どもの活躍の場を多く与えてもらっていると感じる。

6 その他

- ・令和5年度学校運営協議会委員について・・・今年度で委員をおりられる方1名。これまでたいへんお世話になりありがとうございました。